

例会出席の意義

ロータリーが単なる寄付団体、慈善団体、ボランティア団体ならば毎週例会に出席する必要はないでしょう。月に一回でも、2ヶ月に一回でも、極端に言えば一度も例会に出なくても寄付さえしておけばいいかもしれません。

然し、これまで述べてきたように、ロータリー運動は倫理運動であり人の心を重視する優れた精神的奉仕を目的として追及する団体ですから、倫理を提唱していく為には、先ず、ロータリアン自身が心を磨かなければなりません。

毎週一回例会へ出席して親睦を重ね、他のロータリアンの良質な言動に接して自己改善を重ね、奉仕の心を醸成しそれを実践するよう自己研鑽するところが例会であります。人間の精神的持続には限りがありせいぜい一週間だと言われていています。クリスチャンが毎週一回教会に行き心を磨くようにロータリアンも親睦→奉仕の心→実践、そして一週間経って又、親睦→奉仕の心→実践と繰り返しながら、ロータリーの心を形成して行く場所が例会であります。

従って、ロータリアンとして奉仕の実践の第一歩は例会出席であります。

米山梅吉さんが「ロータリーの例会は人生の道場である」と述べられる由縁です。親睦は最も大事なことです。ただ最近残念に思うことは、親睦だけに終わり、単なる「仲良しクラブ」となっている傾向です。楽しい親睦の中に自己改善の要素と社会改良のエネルギーを持っているのが「ロータリーの親睦」であります。私は、入会后27年目を迎えています。例会出席の意義とロータリーの親睦は解っているつもりですが、残念ながら未だ自己改善の成果は少しも見えません。

伊丹RCの深川純一さん(1990~91 第2680地区ガバナー・1992~93地区大会RI会長代理など)が例会について、次のような例え話をしてくれました。

「昔、スイスの片田舎にお婆さんが住んでいました。お婆さんは箆に羊の毛を入れて、小川で洗っていました。そこに神父さんが通りかかり『お婆さんは毎週教会に来て私の説教を聴いているので、さぞ物知りになられたでしょうね』と尋ねました。お婆さんは『聴いてもすぐに忘れてしまうので、何も残っていません。然し、私はそれで良いと思っています。神父さん、箆の中を見て下さい。水は入っては流れ、入っては流れていますが箆の中の羊の毛はこんなに綺麗になって行きます。私は神父さんの話を聞いては忘れ、聴いては忘れていますが、私の心は少しは綺麗になって行くと思います』と答えたそうです。

私は、「ロータリーの親睦」と「例会出席の意義」を噛み締め、この老婆のように、焦らず、楽しいロータリーライフを送ろうと思っています。」

次回のテーマは、職業奉仕の各論といわれる「四つのテスト」です。